

開催月日 : 令和4年 9月23日(金) 書面開催

令和4年度 定期巡回・随時対応型訪問介護看護・医療連携推進会議 議事録

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

主催	グッドライフケア24(文京) 管理者: 牧野 公樹
2022年度 介護・医療連携推進会議について	
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、書面上開催による代替措置を行うこととしました。	
<出席者>	
1. 運営状況報告	
2022年3月から2022年8月までの運営状況報告を行う。	
要介護5の稼働数が昨年度より増加傾向にあったが、5月度を堺に頻度が減り続けている。	
重度利用者の方のコロナ感染により肺炎等をおこし、入院中、入所、廃止を受けたことが原因の一つとも言える。	
2. 事例報告(経緯、一部補足)	
難病を患い、当初より転倒のリスクがあり、大きな怪我に繋がりに兼ねない状態であった。	
介護士が1日4回訪問し、トイレまでの一部移動介助、食事の配膳がメインで介入。	
訪問看護が週2(毎週火・金曜日)で介入し体調の確認、相談、入浴を行っている。	
当初はご自身にて立ち上がり、介護士の手はいらす、近くのものに掴まりながら自立にてトイレまで行き、	
食事に関しても嚥下機能に問題なく、普通食を召し上がっていた。	
徐々に病状も進んできており、年明けにはまた、転倒が多くなり随時での対応も多くなってきている。	
自立歩行が困難になり、手引き歩行にてトイレ移動	
トイレまでの移動が難しくなり、ポータブルトイレを使用、食事、水分はトロミとなる。	
3. 事例報告に対するご意見・質問・要望など	
◆ケースとして多職種連携が上手く行えた内容だったと思う。	
要介護度で言えば、3~5の方が多いのかと思っていたが、要介護1が一番多いとは思わなかった。	
事業所として職員の確保が大変だろうと思っている。フォローを細かくしていると考えている。	
⇒要介護1や2の方でも、独居生活をされている方で、服薬の確認や、短時間での巡回で安否の確認がとれるため、利用されるケースもあります。	
◆1回が短時間での介入ではあるが、いろいろな方が訪問するイメージがあるが、問題なく対応していると思う。	
※介入する人によって、大まかなところは同じでも、細かなところへの気づきや配慮は異なってくると思う。大切なところは異ならないように気を付けてもらいたい。	
⇒1日に複数回訪問するため、同じスタッフが終始伺うことは困難ですが、初めて伺うスタッフへは必ず同行を行い、細かく手順を伝え、利用者様が困惑しないように行っています。	
◆入院中、在宅生活は無理、施設入所が妥当と言われることも多い中、認知症のある利用者は今でも入院したくないと言っている。他のサービス以上に、巡回する現場スタッフは心身ともに負担が大きいと感じる。	
コロナ下で面会も出来ず、家屋調査も、家族ともほぼ会えないまま退院をされるケースも多いので、このサービスがあると助かる。	
⇒サービス導入時には必ずアセスメント調査を行わせて頂き、本人様の状態を細かくお聞きし、プラン計画のお手伝いを一緒に行います。また、状態、状況に応じて計画の見直しも行います。	
◆巡回サービスは在宅に不可欠と思っている。	
訪問する介護士からの、日々の様子や、利用者の変化を聞ける(報告をもらえる)と本当に助かる。	
引き続きお願いしたい。	
⇒ありがとうございます。利用者様の状態の変化にいち早く気づくことが出来るよう、今後も連携に力を注いでいきます。	
◆今回のケースでは年齢が若く、病気(多系統萎縮症)の症状を受け間もなくで、ご自身の受け入れも難しかった中で、独居生活を強いられ、本当に在宅生活は困難では?と思ったが、巡回サービスの良さ、医療と介護サービスの連携が上手くとれた サービスだったと思う。	
また、離れて過ごしているご主人と、同日に亡くなるなんてことが本当に起こるとは、そんなこともあるのかと思った。	
⇒1年間のサービスの中で、ご自身にて行えることが少ずつ減ってきていたのは事実であり、本人様の気持ちが	

切れかかったことも幾度とありました。そのような中で、私たちだけでなく、担当のケアマネジャー様や、訪問診療の先生、
訪問看護師の方々との、本当に細かなことでも連携を取ることで、在宅での生活をギリギリまで行う事が出来たと感じています。最終的には、ご本人様の病気への受け入れが前向きにあったことも、要因であると考えます。
◆最後に
令和3年5月末よりサービス開始となり、ちょうど1年経ち入所へ
多系統萎縮症という進行性の疾患があり、月日が経つにつれ進行が認められるなか、
介護度の見直し、福祉用具の導入、栄養状態の改善等を多職種連携して、その都度サービスの計画を見直すことにより、
大きな事故等なく介入当初から目的としていた施設入所日を迎えることができた事は、大きな自信にも繋がりました。